

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「らいちょうの森」



東洋計器株式会社
会長
土田 泰秀

■自己紹介

平成二年（一九九〇年）四月二十九日「みどりの日」に、水道やガスメーターを製造する新本社工場の敷地約四万平方メートルの一角に社員・家族・協力会社・旧地権者の皆さんの協力を得て、一千本の苗木を植え、三十年後には、緑豊かな森になることを願って「らいちょうの森」と名付けました。

植樹した木々は、
木・ナナカマド・白樺・コナラ・
雪柳・山吹・黒文字・白文字・檀
香梅・アブラチャン・サンシユ・
辛夷・マルメロ・檜・冬青など、



動植物や社員の憩いの場となる
緑豊かな森に（2020年）



植樹直後の「らいちょうの森」
（1990年）

工場内に植える行儀の良い木ではなく、信州の山中に自生するような木を多く選びました。また、ドイツ唐檜も植樹しました。

■活動内容

以来三十余年が経過し、立派な森ができあがりました。除草剤は一切使わないようにし、下草は手で刈り取り、自然に任せた腐葉土が堆積しています。この「らいちょうの森」は、人間以上に動植物に人気があるようで、思いもよらぬキノコ「鬼フスベ」や、鷹の一種である鴛が巣を作り、子を育てて飛び立っていました。鴛や鳥もドイツ唐檜の森が好きで、春が来ると森の上で領空権を争って闘っています。鴛・郭公・杜鵑・小啄木鳥・メジロ・シメ・百舌鳥・カワラヒワ・ヒヨドリ・椋鳥などが飛来し、鳥達が落としていったのか、森に「紫しめじ」が沢山のキノコを作りしました。

六年くらい前から、森の中に蛇が生息しています。生垣の上で気持ち良さそうに体干しをしている所を撮影、全長二メートルある、大物の青大将です。「東洋計器のアナコンダ」と呼称し、守り神としています。



守り神の青大将

■メッセージ

大切にすべきは、緑を守ること。ホモサピエンスがアフリカを出て七万年になります。自然と共に生活をしてきた人類が文明を手にし、都市を作り、森林を伐採し、CO₂は産業革命より遙か前、七千年前から上昇しています。人類が、地上の緑を略奪したからです。

地球の酸素は、緑によってもたらされた恩恵であることを忘れてはならない。「らいちょうの森」を訪れた鬼フスベや鴛、青大将達に出会い、そう感じています。



当社のガスメーターと
鬼フスベ

○連絡先

本社／松本市和田3967-110
電話／0263-48-1121
<https://www.toyo-keiki.co.jp/>

